



がいっぱい いちき串木野市

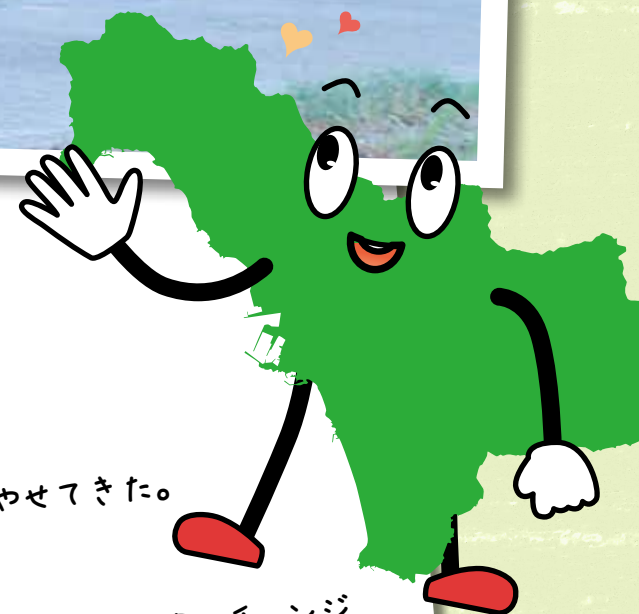
Ichikikushikino City

いちき串木野市って
縁が「あ」「い」ネ

出会い、ふれあい、愛情、あいさつ、アイデア…
私たちの日常には色々な“あい”にあふれていますね
実は“いちき串木野市”はアルファベットで書くと **Ichikikushikino City**
i (あい) が6文字も入っています！これは全国の市で一番多い数です。
Ichikikushikino City が誕生して早くも10年。
今からも“あい”にあふれ、“あい”が生み出されていくまちであり続けていけるように、
みんなでがんばっていきましょう！



いちき串木野氏プロフィール



- 平成17年10月11日生まれの10歳
県下で10番目の合併市として串木野市と市来町から誕生した。
- 生まれた時の人口は33,074人 13,593世帯。今は29,412人 13,489世帯と少しやせてきた。
- 面積は112.30平方キロメートル。
- 住んでいるところ
東シナ海に面する吹上浜北端。年間平均気温18度の温暖な場所。1つの航路、2つのインターチェンジ、3つのJRの駅がある。風光明媚で住むには便利なところ。
- 好きな植物
サクラ(市花)・マツ(市木)
- 好きなもの
共生協働のまちづくり、安心安全、活力ある産業、快適な環境のまちづくり。でも一番は市民の笑顔
- 好きな言葉
「人が輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」
- 嫌いな言葉
人口減少、景気低迷、税収減
- 特技
 - ・「食」を核にしたまちづくり
「食のまちづくり宣言」や「焼酎で乾杯条例」「薩州串木野まぐろプロジェクト」など他市にはない取り組みを官民共同で進めている。
 - ・子どもや高齢者には特にやさしいこと
子育て団地を作ったり、中学生までは医療費が無料だったり子ども好き。今まで市に尽くしてくれた高齢の方には予防接種を無料で受けてもらったり、地域で「ころばん体操」が始まっていたりと世話好きなところもある。

市制施行 10 周年によせて



いちき串木野市長
田畑 誠一

いちき串木野市は、日本三大砂丘の一つ吹上浜の北端に位置し、商業地としての歴史をもつ旧市来町と東シナ海に面し良港をもつ旧串木野市が平成17年（2005年）10月11日に合併して誕生、今年10周年を迎えます。さらに、近代日本の礎を築いた薩摩藩英国留学生19名が本市羽島の地を旅立つてから150周年の記念すべき年でもあり、市民の皆様とともに慶事を重ねて迎えることができ、大変うれしく思っております。

本市は、西に白砂青松が続く吹上浜の海岸線を臨み、東に徐福伝説の霊峰冠岳を控える風光明媚な自然と温暖な気候に恵まれたまちです。こうした豊かな自然、先人の築いてきた歴史文化、そして地理的特性を活かし、本市は、将来都市像「人が輝き文化の薫る世界に拓かれたまち」の実現に向けて、市民の融和と一体感の醸成を図りながら地域の活性化と福祉の向上を目指し、新たなまちづくりを進めているところであります。

現在、いちき串木野市も他の地方都市と同様に、少子高齢化、人口減少、地方分権の進展などの様々な多くの課題を抱えています。このような地域課題解決のため、市民自治による共生



いちき串木野市議会
議長
下迫田 良信

10年前を思い浮かべますと、数々の議論と幾多の紆余曲折を重ねるなかで新市誕生に至る大きな産みの苦しみがあつたことはご承知のとおりであります。今、この10年を振り返ってみますときに、合併当初は、

協働のまちづくりを推進しています。その基本方針となる自治体の憲法といわれる「いちき串木野市自治基本条例」を市民委員が主体となつて作り上げ、平成25年6月議会におきまして可決いただき、各種委員会などで市民委員・公募委員を登用しながら、積極的な市民参加を図り、市民が主役のまちづくりを進めております。

合併以来、新市の一体的な発展をめざし、さまざまな施策を展開してまいりました。市民皆様の念願でありました市総合体育館、パリアフリーなど市民の利便性の向上を図る串木野駅・市来駅・神村学園前駅の整備、交流人口拡大を図るため、地域の特徴を生かした特産品販売所やパークゴルフ場、テニスコートなどスポーツ観光施設の整備を数々実施し、市民の皆様

に喜ばれています。平成26年7月20日にオープンした

薩摩藩英国留学生記念館には、1年間で6万5千人を超える方々にご来場いただき、にぎわいを見せておりますが、今年7月に決まった世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼・造船・石炭産業」の中にも選ばれている集成館・小菅修船場など多くの施設に留学生たちが関わっていることもあり、留学生たちを顕彰する薩摩藩英国留学生記念館は今後ますます注目されることになるでしょう。

また、市民の身近な生活環境においては、市来小学校を皮切りに市内の小中学校の耐震化・大規模改修に着手し、平成27年度中にはすべての公立小中学校で耐震化工事を完了するほか、未来の宝・子育て支援金、中学生までの医療費無料化、高齢者肺炎球菌ワクチンの無料接種など、各世代に住民生活環境の整備を進めてまいりました。

また、市民の身近な生活環境においては、市来小学校を皮切りに市内の小中学校の耐震化・大規模改修に着手し、平成27年度中にはすべての公立小中学校で耐震化工事を完了するほか、未来の宝・子育て支援金、中学生までの医療費無料化、高齢者肺炎球菌ワクチンの無料接種など、各世代に住民生活環境の整備を進めてまいりました。

重要な課題である定住人口拡大のためには、西薩摩核工業団地の16.8haを安価で買い入れ10年間無償で土地賃貸借を行う制度や、設備投資・新規雇用に対する新たな企業誘致制度を始めるなど、さまざまな優遇措置を展開した結果、新たに百名近くの雇用を生み出すことができました。

また、本市には、2つのインターチェンジと、3つの駅があり、市街地に近接してアジアにつながる港湾も備えています。地の利を生かし、九州新幹線・南九州西回り自動車道など新たな社会基盤を十分に生かしながら、未来に発展する地方都市を目指していかなければなりません。また、市民の皆様とともに、いちき串木野市の食材を生かした「食のまちづくり」を進め、特性を活かした本市の発展を図ってまいります。

合併してからの10年を振り返りますと、積極的な

行財政改革を実施し、合併特例債など後年度に交付税で措置される有利な起債を活用しながら積極的な財政健全化を進め、市の借金残高を26億円余り縮小したほか、基金についても平成17年度の21億円から28億円増の49億円に積み増しするなど、持続可能な財政基盤を構築することができました。

これまでの10年は、ひとつの大きな節目であり、皆様とともに築いてきた成果を市民こそつて共に喜びたいと思います。そして今こそ、いちき串木野市の輝く未来への永い歴史を刻む力強いスタートの時であります。私たちは、今まで以上に一致団結して、夢が広がりが希望を抱けるいちき串木野市の未来を創っていかねければなりません。躍動を重ねて優しく雄々しい郷土づくりのために市民の皆様とともに、先人に恥じない立派な歴史を私たちの手で築き上げていこうでは

ありませんか。本市が合併以来、順調に発展することができましたのも、新市の建設に多大のご支援・ご指導を賜りました国・県の皆様はじめ市議会並びに市民の皆様のため、まめご尽力の賜であり、市長として心より深く感謝いたします。

本日の良き日を契機として、市民の皆様とさらに連携を密にし、手を携えて汗を流し、共に悩み、大きな夢を描きながら、融和を深め、「人が輝き文化の薫る世界に拓かれたまち」の実現に向けて、さらに一層の努力を傾注してまいり所存であります。

結びに、市勢発展のため今後とも皆様方のご支援ご協力を賜りますことを重ねてお願い申し上げますとともに、市民の皆様方のご多幸を心からご祈念申し上げます。市制施行10周年のあいさつといたします。

結びに、市勢発展のため今後とも皆様方のご支援ご協力を賜りますことを重ねてお願い申し上げますとともに、市民の皆様方のご多幸を心からご祈念申し上げます。市制施行10周年のあいさつといたします。





観音ヶ池公園



荒川の彼岸花



冠岳



長崎島の夕日



白浜海岸

いちき串木野には自然がいっぱい！潮の薫りを感じながらのウォーキング、冠岳や川上を訪れた時に感じる木々や草花の香りなど、リラックスできる香りがいっぱいです。また、東シナ海に沈む夕日も素晴らしく、潮風を感じながら空の色が移り変わるのを見るのは至福の時間です。

心が癒される薫り

いちき串木野の
i dentity

アイデンティティ

薫る いちき串木野

アイデンティティ…

「自己同一性、自分が自信をもっていること、
自分らしくあるためのよりどころ」

ここでは私たち市民がこれがいちき串木野だ!と言えるもの、
いちき串木野がいちき串木野たる
所以というようなものを見てみましょう。



伝承する 文化の薫り

しるし ぞ 印染め

五月幟など印染めの技法を140年以上にわたり今に伝える。「技法を守ること、そこに住む人たちの生活に育まれてきた地域の特色を後世に伝え、文化風習を残すことそのもの」と話す。



鬼火焚き

七夕踊

七夕踊ほど多くの地域の人が関わる踊りはないだろう。400年もの間、毎年何百人という大里地区の若者によって踊り継がれてきた。そのせいだろうか、若者の近くにはかつて踊った祖父や父の姿が見られる。また、踊り場を移動する途中の家の前にはさりげなく水が用意されていて、地域に愛されていることがよく分かる。いつまでも受け継がれていってほしい風景だ。



七夕踊



祇園祭



田の神講

田の神講 (中福良集落)

今年の収穫を感謝して田の神様に赤飯や焼酎をお供えする。子ども達にも田の神様からのおすそ分けがまわった。



焼酎



まぐろラーメン



つけあげ



ハム



ちりめん



ポンカン



味平かぼちゃスイーツ



イトヨリ

育まれた食の薫り



よか晩ならいちき串木野へ!というほど、私たちのまちの食は豊かです。海の幸やみずみずしい野菜に果物、指名買いが絶えないつけあげ蒲鉾、それらの食材を生かしたご当地グルメなど。居酒屋などのレベルも高く、市外の人からも高い評価をいただいております。これも先人たちが作り上げてきた土壌があるおかげです。



平成17年10月 いちき串木野市誕生

11月 初代市長 田畑誠一氏、初代議長 竹之内勉氏

12月 新市誕生後初のまぐろ水揚げ

平成18年1月 未来の宝 子育て支援金制度創設

2月 羽島漁港「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に認定

7月 指定ゴミ袋・ごみ分別方法の統一

8月 夏季巡回ラジオ体操本市開催

8月 サリナス市と姉妹都市盟約再締結

平成19年3月 多目的グラウンド管理棟兼スタンド落成

3月 串木野駅舎改築

3月 南九州西回り自動車道「川内道路」

3月 串木野IC・薩摩川内都IC(6.5km) 開通

3月 市来えびす市場オープン

8月 神村学園野球部夏の甲子園に初出場

(平成21春、平成23年夏、平成24年春・夏、平成26年春にも出場)

11月 「国民宿舎 串木野さのさ荘」「国民宿舎 吹上浜荘」

11月 「市来ふれあい温泉センター」指定管理始まる

11月 第2代議長 松下育郎氏

平成20年2月 第42回全九州サイクリング大会in鹿児島・いちき串木野

4月 湊町地区の一部で町名・地番変更

4月 いちき串木野パークゴルフ場オープン(36ホール)

7月 スクールソーシャルワーカー(SSW) 配置

平成21年4月 食のまちづくり条例施行

4月 特認校5校へ公用車送迎始まる

4月 (今までの荒川小・土川小に加え、旭小、冠岳小、川上小の3校へ送迎)

6月 照島海の駅オープン

7月 第3代議長 丸山善一氏

7月 平成21年度九州地区漁港漁場大会開催

8月 神村学園中等部女子ソフトボール部史上初の4連覇(全国中学校ソフトボール大会)

11月 第2代市長 田畑誠一氏再選

平成22年2月 第4代議長 竹之内勉氏(2回目)

2月 子育て団地整備(雇用促進住宅引き渡し)

2月 いちき串木野総合観光案内所開設

2月 サリナス市との姉妹都市盟約締結30周年

3月 神村学園前駅開業

3月 土川小学校閉校

3月 串木野駅前広場完成

4月 就学前児童の医療費を全額助成

5月 市来ふれあい温泉センター入館者300万人突破

7月 串木野サンセットパーク完成

10月 市制施行5周年記念式典 いちき串木野市食のまちづくり宣言

平成23年3月 冠岳温泉オープン

3月 東日本大震災 本市からも支援物資輸送や消防職員・保健師等を派遣

3月 九州新幹線全線開業

3月 第28回全国都市緑化がしまフェア「花がしま2011」開幕(5月)

4月 「英語のまち」推進事業始まる 英検受験料補助、英語暗唱・スピーチ大会など

市民の皆様から寄せられた あるエピソードをご紹介

平成20年、次男に自然遺産地育ちの「い」さんが嫁いできました。息子には、もったいないないほどの働き者です。毎日、朝から、夕方まで二人で汚れながら、コツコツと頑張っています。一番条件の悪い次男に嫁いで来てもらって、親としては、申し訳もなく、安心もしています。

文句一言もいわずに、頑張っている姿は、頭が下がる思いです。口数少ない「い」さんですが、長い年月の間に、お互いの気持ちも、通い合っていると思います。

今回を機に、私も今だから、いただいた事のない「感謝状」を素直な気持ちでこめて、差し上げたいと思います。

これから先も、色々あると思います。息子共々よろしく願いたいのです。

繁田 博子さん(浦和町)

出会い

平成20年に県民交流センターで小野田寛郎さんの講演会があり私は聞きにいきました。そこで偶然同席した堀田清子さんという方と、休憩時間にお話をいたしました。そして、講演会終了後、二人で本を求め帰途に着きました。

六年後の昨年4月に、電話があり「奥様覚えていらっしゃいますか。堀田です」とのお声が。私はびっくりいたしました。清子様が「実は主人が脳出血で手術しました。良くなりましたが、お医者さんに「記憶の方に気をつけなさい」と言われて、茶道をされている奥様を思い出しました。ぜひ主人と私に茶道を教えてくださいませんか」と言われるので、私は日を改めて堀田さんのお宅を訪ね、清子さんと再会しました。

そこでは御主人様ともお逢いして、茶道のことを話し申しあげました。ご主人様も「始めてみましょう」と約束され、夫婦で始められて一年が過ぎました。今も「茶道は日本の伝統文化であり、かねての生活にない美しい動作の数々があって素晴らしい」とがんばっておられます。

清子様との出会いに感謝、講演会の小野田寛郎様にも感謝です。
川え上 鈴子さん(麓)

夫婦愛いっぱいなのさ踊り

「ねえ、踊ってみてよ」
夏祭りの準備中、Mメノばあちゃんがよく踊っていた「さのさ」が流れてきた。認知症で無気力だが、目をキラキラして手を動かして、職員さんが驚くほどだった。

4年前亡くなった豊治いちゃんにはビデオカメラを手に踊るMメノばあちゃんを撮影するため、あちこちのイベントに出かけて行った。写真館をしている自宅では、スタジオで衣装を着たMメノばあちゃんをカメラで撮影をして、大きくする。孫から見ても二人の愛情は果てしなかった。

市制施行10周年11戦後70年、焼け野原の旧串木野市をカメラのレンズで見てきた豊治いちゃん、踊りで絆を深めたMメノ婆ちゃん。名を変えて大きく変化した町をどんな思いでみてきたのか？

いちき
いま・

10年の



10月 下名地区及び上名地区の一部における町名の新設・変更（平成24年4月・10月も）
11月 第5代議長下迫田良信氏

11月 ご当地グルメ「まぐろ舵取り丼」発売
11月 レトルト版「いちきボンカレー」発売
11月 神村学園人工芝サッカー場完成

12月 事前予約型乗合タクシー「いきいきタクシー」が市来地域で運行開始
12月 消防団に初の女性団員7名が誕生

平成24年2月

2月 薩摩金山蔵（株）県内で40年ぶりに清酒を製造

3月 串木野駅と鹿児島空港を結ぶ空港連絡バス廃止

4月 各地区でまちづくり協議会設立始まる

4月 照島海の駅食堂オープン

4月 移動図書館車「ゆめはこぶくん」購入（更新）

4月 人工芝8面の市民球場オープン

10月 海抜と川内原子力発電所からの距離を記した標識を市内125か所に設置

平成25年4月

住宅用太陽光発電システム設置費補助を創設

4月 いちき串木野観光大使第1号 歌手 鳥羽一郎氏を任命

6月 焼酎で乾杯条例施行

10月 市内めぐり観光バス「EATこバス」運行開始

10月 総合体育館オープン（総合体育館の完成により総合運動公園の整備も終了）

10月 鹿児島まぐろ船主協会「薩州串木野まぐろ」ブランドロゴマーク発表

11月 第3代市長 田畑誠一氏（3期連続）

11月 第6代議長 下迫田良信氏（2期連続）

12月 薩摩串木野まぐろの館 オープン

12月 串木野駅・市来駅開業100年

平成26年2月

串木野駅バリアフリー工事完成（エレベーター設置等）

3月 高速船シーホーク運航終了

4月 自治基本条例施行

4月 串木野高校へ国公立大学入学金や入学準備金の補助など支援開始

4月 いちき串木野市観光特産品協会 設立

4月 障がい者等基幹相談支援センター設置

5月 転入者住宅建設補助金交付第1号

平成32年鹿児島県国体で、

5月 バレーボール成年男子とバスケットボール少年女子の開催地に決定

6月 長崎鼻の柳原白蓮の碑、人気スポットに

6月 NHKのど自慢開催

7月 薩摩藩英国留学生記念館オープン

8月 神村学園高等部女子ソフトボール部インターハイ優勝

9月 車の最高速度を30kmに規制するゾーン30が照島地区で運用開始

10月 子ども医療費を中学生終了まで無料に

平成27年1月

串木野中央通り会アーケード撤去

3月 JR市来駅広場整備

3月 瀬渡船開洋丸転覆事故から30年

4月 串木野高校 支援拡大（通学費や国公立大学受験料補助など）

4月 海鮮まぐろ家 オープン

9月 いちきふれあい温泉センター入館者400万人突破

10月 市制施行10周年

「さのさ」を見るとムメノ婆ちゃんも豊治いちゃんも愛を思っている、切ない。
森 みゆきさん（御倉町）

私は串木野小学校4年生です。

いちき串木野誕生と同じ年の9月に生まれました。今年は半成
人の10才になります。

私の名前は「愛莉」です。やさしくてみんなから愛される女の子
に育ってほしいとの願いが込められているそうです。

そして私の大好きなペットはジャンガリアンハムスターの「ジャ
ン」です。かわいくていつもなでています。

いちき串木野にはとってもおいしい食べ物がたくさんあってう
れしいです。ちなみに、一番好きなのはまぐろラーメンです。スー
パまでおいしくてサイコーです。

お兄ちゃんといっしょに新港でつりをしたり、今年の夏は友だ
ちとも長崎鼻カールにいったりして楽しめました。これからち
いきの文化にふれあって、10年後はりっぽな20才の成人式をむか
えたいです。

小島 愛莉さん（曙町）

私には「会いたくなる人」がいます。その人は、以前職場で一緒
に働いていた人です。私が「会いたい」ときに電話をかけると、「も
しもし、遊びにおいでよ」と、いつも温かく迎えてくれます。そ
の人の年齢は、私の母に近いくらいなのですが、私にとって母親
のような、友達のような、特別な存在です。年は離れていますが、
なぜか話が合い、一緒にいると安心します。

悩み事も話すと不思議と気持ち軽くなります。そういう人に
はなかなかめぐり逢えないものですが、出会えたことに本当に感
謝しています。

いつも会いに行くと温かく迎えてくれてありがとう。また近い
うちに会いに行きますね。

匿名希望さん（湊町）

串木野で生まれ育った私には、市来に祖父母がいました。父も
母も市来の出身。幼少の頃、祖父が「セタ踊り」に連れて行っ
てくれたことを憶えています。虎の迫力におびえ、ただ遠巻きに眺め
ていただけでしたが……

「ぎおん祭」では、勇壮な「男山」と華やかな「女山」が、祖父母宅
の近くに集まります。「山車」の上には、さっきまで汗だくになって
太鼓を叩いていた、いとこの姿がかっこよく、まぶしかったなあ。

「さのさ祭り」の前夜祭は、子どもの頃の大きなイベントでした。
違った返す人波の中で出会う友人たちに、いつもと違う空気を感
じたものです。

これといった目標もなく、県外の大学へ。大都会の喧騒には慣
れたものの、「こころは生活」ところいらないと卒業後に帰郷。
穏やかに流れる故郷の時間が、私をすぐに包み込んでくれました。

合併から10年。私が慣れ親しみ、思い出多い2つのまちが出
会い、一つのまちになりました。

これからの10年。2つのまちを知らない我が子たちは、この
まちにどんな思いを寄せ、成長するのでしょうか。

いつまでも愛されるまちに。そんな「いちき串木野市」であって
ほしいと思います。

C・Yさん

生産者と消費者が一体となったステージ

「食のまち」に 朝市風のはいかが？



イタリアンシェフ 濱崎 龍一 さん (レストランテ濱崎オーナーシェフ)

プロフィール

1963年 串木野市生まれ。イタリアで修業を積み帰国後、東京・乃木坂「レストランテ山崎」に入店。1993年よりシェフを務める。2001年12月オーナーシェフとして東京・南青山に「レストランテ濱崎」をオープン。料理と向き合う日々の中、NHK「今日の料理」などテレビ出演や著書も多数。市の「観光大使」ほか県の「薩摩大使」、「鹿児島食の匠」等も務める。現在は東京都在住。

「イタリアンシェフを志した理由を教えてください」

最初はそんなに志を持ってこの世界に入ったわけではありません。実家が蒲鉾屋をしていたせいか、そのうちに実家でも継ごうかな、という安易な思いで串木野高校を卒業したあと、大阪の辻学園 日本調理師専門学校で1年間学びました。

卒業後は一世を風靡した東京の「バスタパスタ」というイタリアンレストランで働ける機会があり就職しました。働きはじめてみると同年代のスタッフがイタリア料理のことに対しても真剣に取り組み、そして知識も豊富なことには驚き、私もこれではいけないと思い、それから私なりにがんばり始めました。21、22歳の頃だったと思います。

働いているうちに、本場イタリアに興味を持ちはじめ、もっとイタリア本来の味を知りたいと思うようになり、3、4か月かけてイタリア全土を食べ歩きの旅に出ました。とにかく見るもの味わうものすべてが初めての経験だったので、驚きと感動の連続でした。イタリア語は全然わからなかったのですが、なんとか料理のメニューはわずかながら理解できたので旅が続けられたように思えます。若かったせいでしょうか、知らずだったのかも知れませんね。

その後、いったん帰国し再びイタリアへ、今度は仕事をしようという志で渡りました。フレンチやマ

ントヴァの「ダル・ペスカトーレ」※1という店で修業することができました。今でも素晴らしい経験ができたと思っています。その経験のおかげで今の私自身が支えられているくらいです。

帰国後は、乃木坂「レストランテ山崎」※2で料理長として13年勤めたあとと独立して、2001年に「レストランテ濱崎」を南青山にオープンしました。

※1 ダル・ペスカトーレ ミシランガイドで3つ星を16年連続獲得した名店

※2 レストランテ山崎 1986年にオープン。当時はまだなかったイタリアの洗練されたレストランというスタイルを日本で具現化した名店。濱崎氏以外にもシェフを輩出した店に数多く有名。

「いちき串木野は「食のまちづくり」を進めています」

やはり「食」をテーマにするのであれば、もちろんマグロを含め色々な食材や、そしてその周りの環境などにも目を向けていく必要があるのではないかと思います。決してお金をかけるだけではなく、今あるものでやっていけたらさらに良いのではないかと思います。食材に至っては自身、店でも鹿児島産の食材を積極的に使用するようにしています。もちろん、いちき串木野産の物（マンゴー、サワーポメロ、海産物、その他もたくさん使っていますよ。

話は変わりますが、例えば商店街の人たち（農業、漁業、畜産業、その他の方々が力を合わせて朝市みたいなものを作ってみるのも面白いのではないのでしょうか。最初は本

に小さな朝市からでも宜しいのではないのでしょうか。もちろん大変なことだとは思いますが。一つの案としてですよ。

「既存の商店街の活用が有効だ」と

30、40年前：私の記憶だと、昔はアーケード街にも活気があった気がします。私は商店街で育ちましたので、夜遅くまでアーケードにも灯りがついていたように思われます。当時の楽しかった記憶が今でも懐かしく思われます。その記憶のせいか、帰省すると最近は中心市街地に元気がなく、とても寂しくなった気がします。もちろん人口も減少しているせいもあるのですが。

今、アーケードを使って市を開催している若い人たちがいると聞きました。とても素晴らしいことだと思います。若い人たちの力を借りて、商店街が少しずつでも元氣を取り戻していけるといいですね。ほんとにちょっとしたきっかけなのかもしれませんが。農家さんや漁師さん、商店街の人々、そして市民のみんなが集まれるような場所や施設（市場みたいなもの）があれば素晴らしいことかもしれませんね。

このような輪が広まっていくことが、これからやっていかなければならない理想の形のように思います。私も何かお手伝いできる事があれば協力していきたいと思っております。とても素晴らしいことではないのでしょうか。

「これからの時代の在り方をどのようにお考えですか？」

こんな時代だからこそ、昔を振り返ってみるのも良いのではないのでしょうか。食を原点に一つの観光地化として考えていくのも面白いと思います。

田舎らしさが、逆に素晴らしいことのような気がしますので、これからは田舎らしさを全面に出すことが新しさなのかもしれません。人と人とのつながりや、会話のできる安心な場所が必要になってくるのではないのでしょうか。

例えば生産者 農業、漁業、畜産業の方々など、そして私たち作り手が一緒に作った体験型をテーマにした取り組みも面白いのではないのでしょうか。子供たちが、お年寄りの方々の豊富な知識や経験を教わりながら、土に触れたり海で魚を釣ったりする、そんな体験の中から楽しさや喜びが生まれてくるのでは。そうしたことでの人の輪が増え、またひとつの環境が作り出されていくと素晴らしいと思います。

「食と観光についてはどのように思われますか」

食が栄えれば、必然的に観光も栄えると思います。やはりおいしいものを食べたという記憶が人には絶対に残るのではないのでしょうか。たとえば、海や夕日を見ながら食事ができるとか、山の木々を見ながら食事ができるとかそういった施設があれば一つの観光地としての魅力だと思います。

いちき串木野には、素晴らしい自然と食材そして素晴らしい人たちがいるのですから、みんなで少しずつ盛り上げていけたらよいと思います。



いちき串木野がもっと市民や多くの方に愛されるためには、何が必要か？ いちき串木野に愛着を寄せる3名の方にインタビュー



変化を 楽しめるまちに

写真家 下 蘭 詠 子 さん

プロフィール

1979年 串木野市生まれ
写真集「きずな」で写真の芥川賞と言われる第36回木村伊兵衛写真賞大賞とビジュアルアーツフォトアワード2010大賞を受賞。著名なミュージシャンやスポーツ選手なども多数撮影。創作活動のかたわら、現在毎日新聞にて隔週土曜日にコラム「解放区」を連載中。市の観光大使も務める。いちき串木野市在住。

「写真の世界に入ったきっかけを教えてください」

串木野高校の生徒だった頃、どちらかというと集団生活が苦手な性格でした。一人の世界に入りたくて物を作ることや美術に興味があり、よく図書館や美術館に通っていました。3年生の時、アンディ・ウォーホルのシルクスクリーンに魅せられました。シルクスクリーンを学びたかったけど日本にはなくて、当時、一番近かった福岡の写真の専門学校に行つたのがきっかけです。

本当は鹿児島から出たくなかったんですけど、ゆっくりした環境で育つたので、人が多いところは嫌だと思っていました。でも、行ってみたらいろんな考えの人がいて、とにかく面白かった。

「その後、東京に出て活躍されていたのに、鹿児島に帰ってきました」

専門学校に3年いて、その後東京に行きました。東京にはプロがそろっていて刺激も多く、好きでした。でも2013年3月11日の東北大地震があり、東京でも揺れの恐怖、放射能の心配があつて東京を離れた人は多かったですよ。その後、どこに行こうかなと旅して日本各地をあちこち回つたら、いところだなと思ったところが生まれ育った鹿児島でした。

「市は将来都市像の一つに「文化の薫る」

まち」を掲げていますが、それについてどう思われますか。

デザイン面から見ると印象ですが、いちき串木野でいいと思うのは大漁旗。カッコいいと思います。色もカラフルで気持ちいいから私の作品にも大漁旗を使った作品があります。ただ、芸術と言う点については、正直、市はもう少し力を入れてみてはどうでしょうか。例えば、市の広報紙。書体とかデザインとか、少し年配向けに感じます。人にはデザインで「おっ」と思うと、見てもしょうもない動きがあります。色や書体をひっくるめて、市をこれから支えていく若い世代にも興味を持ってもらえるようにしたほうがいいのではないのでしょうか。

観光的なパンフや包装紙なども、消耗品的なものでなく、カッコ良かったり、可愛かったり、手にした人がずっと取っておきたいようなものが増えるといいと思います。そういったもののセンスが良かったら、まちを自慢したくなるような気がします。

「芸術やアート、デザインが街には必要」ということでしょうか

例えば、京都のポスターの書体一つからも京都らしさが感じられるように、いちき串木野が何か動き始めたなという変化を皆が楽しんでくれるようになると楽しいですね。

すごく冠岳や川上などにスピリチュア



決めたなら前へ進め

— 幼少期はどんな子供でしたか

生まれ育ったのは市来地域の迫集落です。学校は大好きでしたが毎日の通学が遠くてしんどいと感じていました。ただ、学校が近づき友達と顔を合わせると、「今日は何して遊ぶのかな」とワクワクしたのを覚えています。

当時は娯楽施設などなく、自然が遊び場でした。山に入り虫を捕ったり、川や海で泳いだりと野性味溢れる遊びばかりでした。もちろん野球も大好きだったので毎日のようにしました。

稲刈りの終わった田んぼで野球をして怒られたこともありました。人の家の木に登り、果物を取り怒られたこともありま。いわゆる悪力キでした。

でも不思議とその怒られる中にも愛情を感じることができました。「勝手に入ったり、取ったりしたらだめだ」と注意されて、それから素直に断りをいれたら、こころよく遊び場を提供してくれるようになりました。

振り返ってみると、豊かな自然に囲まれ、こうした地元の人達の温かさで囲まれて育てられたんだなと思います。僕にとつてのいちき串木野市は、故郷そのもの。すべてが生きていると感じさせてくれるところです。今は感謝の気持ちでいっぱい。

— プロを志したのはいつごろです

か？

私が野球を始めたきっかけは友達でした。父も野球が好きで、私にも野球をさせたかったのだでしょう。幼少期からよく兄達の野球に連れて行ってくれました。そこで友達を応援するうちに私も自然と野球を始めていました。

でも、プロを志したのはいつ？と聞かれるとはつきりしません。野球をやる「プロ野球選手を目指す」という気持ちがあったのは覚えてい。少年野球、高校野球と勝ち続ければプロ野球選手になれると思っていました。こういうことを覚えていたので小学校低学年の頃かもしれません。

ただ、野球を続ける中で、プロ野球選手になるというのはいつの頃からかハッキリとした目標に変わっていました。

— プロを目指すことを決めた後、ご自身の心境や行動に変化がありましたか？

「自分がうまくなるためには何をすればいいのか」と真剣に考えるようになった。

当時、市来町にはソフトボールチームはありましたが、将来を考えると僕はどうしても硬式野球をしたかった。「全国には上手な選手が沢山いるはず。色んな選手と対戦したい」という気持ちが大きかったのだ。兄が入っていた鹿児島市内のチームに入りました。

プロ野球選手 飯山裕志 さん (北海道日本ハムファイターズ)

プロフィール

1979年 市来町生まれ
れいめい高校卒業後、1997年に北海道日本ハムファイターズにドラフト4位で入団。2005年に開幕一軍入り。高い守備力を武器に内野のすべてのポジションを守れる守備のスペシャリストとして活躍中。
2006年にチームが優勝した際、夫人が双子の子供を出産したばかりなので「日ごろいないから、オフくらいは手伝いたい」と優勝旅行を辞退する家族思いの優しい一面も。正月に帰省した時は地元の子ども達と野球を楽しむ。現在は東京都在住。



チームの練習グラウンドは遠く、練習に参加できるのは土日だけでした。そのため平日は自分で練習するしかありません。兄とキャッチボールやティーバッティングはできましたが、体力トレーニングになると年齢差があるので一緒ににはなかなか出来ませんでした。

そこで思いついたのが、今まで遊び場にしてた山や海岸をトレーニングに使うことでした。通常のランニングもしていましたが、1人で走り続けるのは結構辛いものです。飽きや精神的な辛さを解消する為の一

つの方法でした。学校の行き帰りも走ったりしました。日常生活の中でパツと思いついたり、気がついたことをすぐに実行してトレーニングにっていました。

— プロ入り後はどうでしたか

プロ入り後は最高レベルの人たちと野球ができるワクワクしました。でも実際は挫折の繰り返しでした。高いレベルの中でプレーができない自分の技術のなさ、体力のなさ。これがプロ野球かと痛感させられました。

しかし自分の選んだ道、目指してきた場所なので、辛いよりも「絶対に上手くなつてやる」と日々、努力しました。5年目に初めて一軍に上がったときはとても嬉しかったです。

— 今年、ふるさとで開いた野球教室で子ども達が飯山選手を見る目は輝いていました。子ども達にメッセージをお願いします

夢や目標に向かって努力していても、全てがうまくいくわけではあり。失敗と成功を繰り返して目標は達成出来るのだと思います。大事なものは、つまづきながらも前進していくこと。

こう言つと、すごく難しく考えたり、辛そうだな！と思うかもしれませんが、

でも、もっと単純に考えてみてください。夢や目標を決めたのは誰？それは好きなことじゃないの？全て自分で決めたことじゃない？全部自分の気持ち次第でできる！という

ことを知ってください。そうすれば、失敗しても必ず乗り越えられる。また、失敗をして人は強くなるのだと思います。

初めからうまくできる人なんていない。人より色んなことを早く感じて、実行していくことが夢への近道じゃないでしょうか。

もっと*あい*されるまちになるために

ルな気持ちよさに感動します。でも地元に住んでいると、いつも見ているから、そこにある素晴らしいさを忘れてしまいがち。芸術家の外からの視点で作られた作品を見たり聴いたりしたら、小っちゃい世界の常識が目からうろこの状態になることもあるのでは。そのツルツルの眼で見たら、いちき串木野の違った視点も生まれてくる。常識にとらわれない柔軟な心が大切だと思います。

いちき串木野にも日本的な文化とデザイン的なバランスがとれた、いいデザインの建物がありますが、アートに関して言えば鹿児島は理解度、関心が薄いように感じます。アートを縁遠い世界だと感じている人が多い。もっと変化を楽しめるようになるというですね。変化を楽しめるということは、一つの視点ではないところを探し始めること。楽しみや感動を見つけやすい状態が心の中で整うことなんです。

— 芸術や文化の底上げのためにはどうすればいいでしょうか？

文化的、芸術的なものに触れるところから始まるのではないのでしょうか。いちき串木野市が唯一無二な都市になるには、その機会が少ないと感じます。ただ、興味がない人に、アートや芸術を見に行ってくれと言つのは難しいですね。身近なところでアートの触れる環境づくりが必要だと思います。

母親が子に優しくすると子が優しく育っていくように、芸術やアートに人々が影響を受けていく。水面に落とした水滴の波紋がゆつくりと広がるように、興味を持つ人が徐々に増えていく。そんなイメージです。— 具体的にどのようなことに取り組んだらいいと思いますか？

実力ある作家や音楽家を呼んで、もてなす環境を整えてみたらどうでしょうか。芸術家には、ときには違う所に身を置いてゆつくりと創作したいというのがあります。ただ、滞在費がどうしてもかかるので、その辺を市がバックアップしてくれると創作活動にやすくなります。

私は県外に好きな写真家がいるのですが、そういった実力ある才能を持った人にいちき串木野の写真を撮ってもらう。そのためには、空き家をアトリエに改装して泊まる場所は提供する、まちを紹介する環境を整える。食事は「食のまち」だからいろいろ

んな店に行つてね！みたいな(笑)。そういう人の撮ったいちき串木野を私は見てみたいし、その人の作品見たさに東京から人がくる。作家にとつてもいい作品ができたなら、いちき串木野にいい印象をもってもらえますしね。

あと、子ども達の美術の授業で、実力ある作家や音楽家のところに行つて、生で声を聴き、作業を見る。そして感想文を書いて作家に送る。それは立派な芸術文化になると思います。県内でもデザインへの取り組みというのは増えてきているし、日本の第一線で活躍するいちき串木野出身のデザイナーさんなんて、このまちで何かできたら面白そうだね、という話はしています。こういうのを一個一個増やしていけば芸術文化の底上げになると思います。

— 個人ができる取り組みはありますか？

私はいつも大切にしているのは、ワクワクしながら物をつくること。義務感から落ち着いて、心の環境を整えてから「さあ頑張るぞ！」と目の前のものに取り組んでいます。人の感情は物を介して伝わるもの。だから手は振けません。自分が与える影響とえられる影響は意識しています。自分からワクワクは発信していきたい。目の前の人や物を大切にしていくと、それは末広がりに、水紋みたいにゆつくりと広がっていきます。

— 子ども達は天才とおっしゃっています

子どもの絵は芸術的ですよ。ある祭りで、子ども達の絵が貼つてあったけどすごくいいと思います。お父さんを平気で青色で描いたりしています。子どもは想像力が豊かで天才！「上手に描きなさい」だと素質がつぶれる子もいる。描きたいのを描いた」という子どもの自由な発想や純粋性を大事にしてあげられるといいですね。

子どものために才能のあるアーティストをまちに呼び、子どもの可能性が広がる。将来、インスパイアされた子どもが大人になって、「いちき串木野市って芸術家多くない!？」みたいなになればホントステキですね。



市長賞



小学生 下学年の部 (1～3年生)



市長賞

串木野小学校2年
小牟田 ひなさん

「おまつりのもちまき」
串木野はおまつりがたくさんあります。さ
のさ祭りの楽しかったモチまきのようにす
をかきました。おまつりは大好きです。

い i ~とこ見つけた 絵画展

いちき串木野には「い～とこ」がいっぱい!私
たちのまちのこんな場所やこんな事が好きと
いうのを市内小中学校から募集したところ、
風景やお祭り、子ども達の日常や体験、食
のまちらしく食べ物まで、いろいろなテーマ
の作品180点が寄せられました。ありがとう
ございます。

審査員 中村一則先生 評

子ども達の切り口がおもしろく、力作が多かった。様々なところに
いちき串木野のいいところや素敵なおとこを見つけていると感じ
た。審査していてとても楽しかった。

議長賞



串木野小学校1年 桃北 花温さん
「楽しい「さのさ祭り」」

教育長賞



串木野小学校2年 橋之口 絢香さん
「かわいい犬を見つけたよ」

市長賞



市長賞

川上小学校4年 久保 陽子さん

「長田神社とあじさい」
川上踊りで一番最初に踊る長田神社です。踊りを見に
行ったとき、緑がいっぱいでかきたいなと思いました。
川上は大好きです。

小学生 上学年の部 (4～6年生)

議長賞



羽島小学校6年 江畑 大星さん
「記念館前の風景」

教育長賞



生福小学校4年 吉村 歩乃佳さん
「第3回生福かかしコンテスト」

市長賞



市長賞

串木野西中学校3年 森 良介さん

「浜競馬」
浜競馬で馬が浜辺をかけている場面です。カッコいいと
思い描きました。走って見えるように、背景が流れるよ
うに工夫しています。

中学生の部

議長賞



神村学園中部2年 榎田 尚人さん
「照島神社と赤とんぼ」

教育長賞



串木野中学校3年 末吉 遙さん
「秋景 冠嶽園」